

実践報告

ヘルスプロモーターの役割を担う児童を育てる指導の工夫 —第6学年保健学習と総合的な学習の時間の授業実践を通して—

久保田美穂

1 はじめに

近年、「学校を中核とした地域社会や家庭のもとに包括的に進める総合的な健康づくり運動」として、ヘルスプロモーション・スクールが展開されている。これはWHOにより1986年のオタワ憲章ⁱにて提唱された新しい健康観に基づく健康戦略「ヘルスプロモーション」の一環であり、1990年代に入り、具体的提案として世界に示されたものであるⁱⁱ。

ヘルスプロモーション・スクールは児童生徒等だけでなく、教職員、家族、地域構成員の健康改善にも努力するⁱⁱⁱという特徴を有しており、このような活動を推進するサポーターとして、ヘルスプロモーターの必要性が指摘されている^{iv}。

ヘルスプロモーターとは、自分自身の健康づくりと共に他者の健康づくりも推進していくことができる者のことを言う。オタワ憲章ではヘルスプロモーターの新たな役割として、「①advocating：政策提言を行う」「②enabling：能力の付与を行う」「③mediating：他分野との協調をはかる」が示されている。

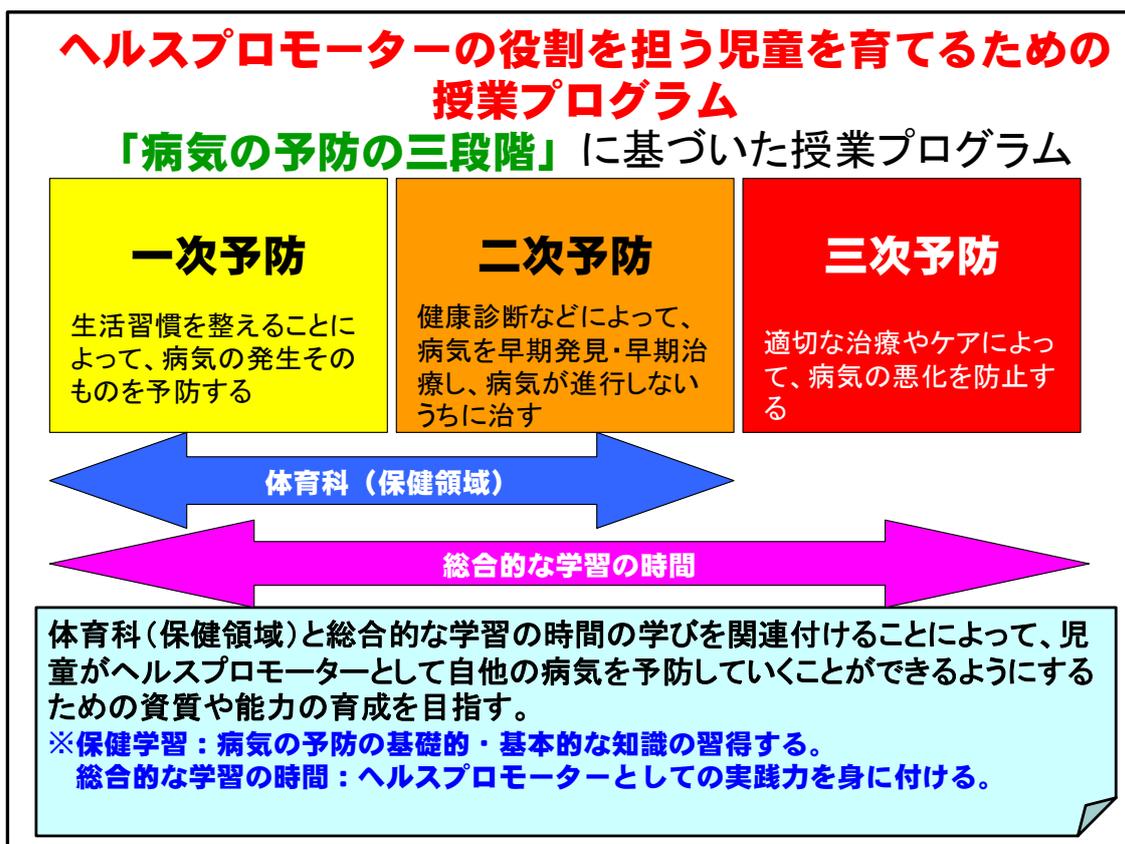
一方、学校におけるヘルスプロモーターとして、養護教諭の役割について報告された研究^vはあるが、児童生徒について言及したものはほとんど見当たらない。しかし、児童生徒等は家族に対して強い影響力をもつ存在であり、実際、児童に対する保健学習の結果、児童が家族に対し働きかけを行ったという経験を著者は

有している。具体的には、平成21年度、著者は国立がん研究センターの研究者と「小学校健康教育資料 生活習慣病のひとつ がんのことをもっと知ろう^{vii}」を開発し、それをを用いて体育科（保健領域）単元「病気の予防」の授業研究に取り組んだ。その際、事後の保護者の聞き取り調査から、児童が保健学習で学んだことを基に、家族ががん検診を受けているかを確認したり、禁煙を促したりしていたことが分かった。これは児童がヘルスプロモーターとして、家族ががんに罹患することを予防しようと働きかけていた姿ととらえることができる。このことは、厚生労働省の「がん教育に関する委員からの意見のまとめ」でも、がん教育を子供が学ぶことによる親への逆世代間伝達の効果^{viii}として言及されている。

これらを受けて本研究は、児童がヘルスプロモーターの役割を担うことについての可能性や、児童を対象とした育成のための授業プログラムの開発についての知見を得ることを目的とする。具体的には、ヘルスプロモーター役割のうちの、「①advocating：政策提言を行う」「②enabling：能力の付与を行う」を中心として育成し、「③mediating：他分野との協調をはかる」については関係機関の紹介ができるようになることを目指して、保健学習と総合的な学習の時間の授業プログラムの研究に取り組むこととする。

2 授業プログラムの実際

1) 「病気の予防の三段階」に基づいた授業プログラム



「病気の予防の三段階」に基づいた授業プログラムを展開することによつて、保健学習と総合的な学習の時間での学びを関連付けた。このことによつて、児童が自他の病気を予防していくことができるようになるための資質や能力の育成を目指した。

第一に、保健学習「病気の予防」において、病気の予防の基礎的・基本的な知識を習得した。

具体的には、一次予防（生活習慣を整えることによつて病気の発生そのものを予防する）と二次予防（健康診断などによつて病気を早期発見・早期治療し、病気が進行しないうちに治す）について学んだ。

次いで、総合的な学習の時間「目指せ！ヘルスプロモーター」において、がん患者の話を聴いたり、調べる活動をしたりした。これらを通して、一次予防・二次予防のほかに、三次予防（適切な治療やケアによつて病気の悪化・再発を防止する）についても、その重要性や内容をより具体的に学べるようにした。

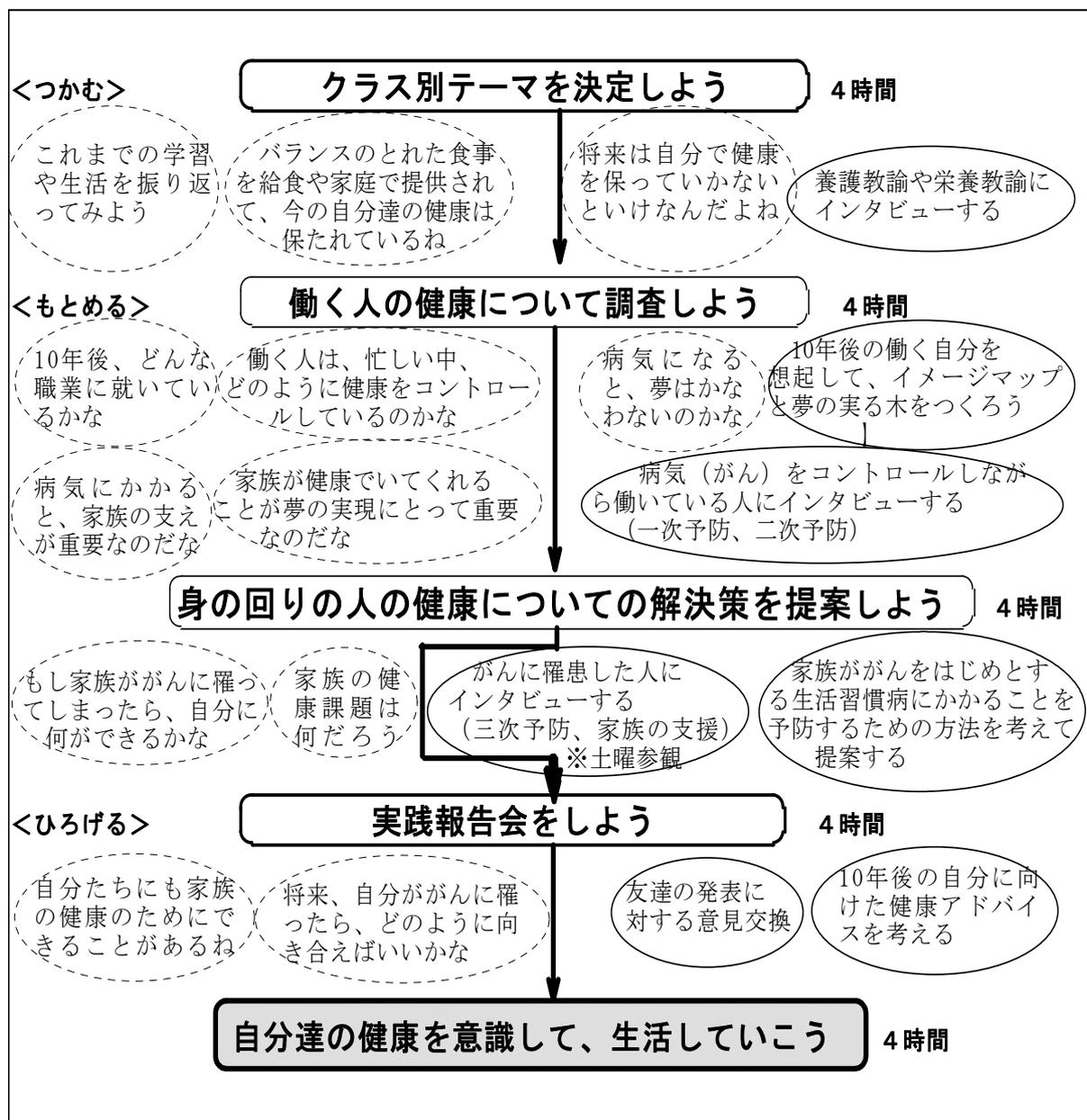
また単元の後半で、家族ががんをはじめとする生活習慣病に罹患することを予防していけるように、児童がヘルスプロモーターとして実際に働きかけを行った。これらの取組によつて、総合的な学習の時間では、ヘルスプロモーターとしての実践力を育成することを目指した。

保健学習と総合的な学習の時間の指導計画は、以下の通りである。

(1) 保健学習「病気の予防（8時間扱い）」指導計画

時	指導計画	「がんのことをもっとよく知ろう」 参照ページ数	評価計画・評価規準
病気の起り方	<p>《追跡！病気の原因》</p> <p>1 どんなときに病気にかかるかについて、班で話し合う。</p> <p>2 病気の原因を内容別に分類し、病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こることを知る。</p>		<p>〈関・意・態①〉(学習活動1)</p> <p>○病気の起り方について、自分の生活を振り返ったり、友達の意見を聞いたりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 【観察】</p> <p>〈知・理①〉(学習活動2)</p> <p>○病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こることについて理解したことを書いている。 【ワークシート】全児童記録</p>
病原体がもとになっておこる	<p>《進め！ウイルス・バスターズ》</p> <p>1 病気の予防の三原則について知る。</p> <p>2 病気の予防の三原則に従い、インフルエンザの予防の方法を考えてワークシートに記入し、班で話し合う。</p> <p>3 エイズの病態と予防の方法について調べたり、班で話し合ったりする。</p>		<p>〈関・意・態②〉(学習活動1)</p> <p>○病気の予防について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組んでいる。 【観察】</p> <p>〈思・判①〉(学習活動2, 3)</p> <p>○病気の予防の方法について、自分の経験や友達の話、調べたことを基に、方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを表している。 【観察、ワークシート(全児童記録)】</p>
喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	<p>《どうしてダメなの？お酒とたばこ》</p> <p>1 飲酒と喫煙が体に及ぼす影響について、班で話し合う。</p> <p>2 飲酒と喫煙が成長期の体に及ぼす影響について知る。</p> <p>3 勧められた際の断り方について考えてワークシートに記入し、班で話し合う。</p> <p>4 有効な断り方を班毎に発表する。</p>	PP. 8, 9 「たばこのけむりはがんのもと」	<p>〈思・判②〉(学習活動1)</p> <p>○効果的な断り方について、自分の考えや友達の意見を基に、方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを表している。 【観察】</p> <p>〈知・理②〉(学習活動3)</p> <p>○飲酒と喫煙が体に及ぼす悪影響について理解したことを言ったり、書いたりしている。 【観察、ワークシート(全児童記録)】</p>
	<p>《知ろう 薬物の恐ろしさ》</p> <p>1 薬物乱用防止キャラバンカーを見学する。</p> <p>2 元麻薬取締官から薬物の害の話聞く。</p> <p>3 健康を守るためにはどのように生活すればよいか考え、ワークシートに記入する。</p>		<p>〈思・判③〉(学習活動3)</p> <p>○健康を守るための生活について、学習したことを基に、方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを表している。 【ワークシート】全児童記録</p>
生活行動がかかわって起こる病気の予防	<p>《生活習慣にひそむ病気》</p> <p>1 日本人の三大死亡原因を考える。</p> <p>2 がんについて話を聞く。</p> <p>3 生活習慣病を予防するためにできることについて考え、ワークシートに記入する。</p>	PP. 4, 5「がんはどんな病気？」 PP. 6, 7「がんはどのようにしてできるの？」 PP. 10, 11「生活習慣でがんを防ごう」	<p>〈知・理③〉(学習活動3)</p> <p>○幼少期からの生活の仕方が生活習慣病の原因になることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。 【ワークシート】全児童記録</p>
地域の様々な保健活動	<p>《目指せ！ヘルスプロモーター》</p> <p>1 本時の見通しをもつ。</p> <p>2 国立がん研究センター研究員の話聞き、質問する。</p> <p>3 家族が生活習慣病にかかることを予防するためにできることについて考え、ワークシートに記入する。</p>	PP. 12, 13 「がんを早く見つけて早く治そう」	<p>〈思・判④〉(学習活動3)</p> <p>○学習したことを活用して家族が生活習慣病にかかることを予防するためにできることについて考える学習活動を通して、解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを表している。 【ワークシート】全児童記録</p> <p>〈知・理④〉(学習活動2, 3)</p> <p>○人々の病気を予防するために、地域では健康な生活習慣にかかわる情報提供や予防接種などの活動が行われていることについて理解したことを書いている。 【ワークシート】全児童記録</p>

(2) 総合的な学習の時間「目指せ！ヘルスプロモーター（20時間扱い）」指導計画



2) 健康信念モデルに基づいた学習活動

健康信念モデル（Rosenstock, Becker ら）^{ix}という健康行動理論に基づいた学習活動を設定した。この理論は、危機感を実感したり、健康行動を実践していくことによるプラス面がマイナス面よりも重大であることを実感したりすることによって、健康行動を実践していくことができるようにする理論である。この理論に基づいた学習活動を設定することによって、病気を予防するための健康行動を実践していくことができるようにした。

(1) 保健学習における健康信念モデルの活用

保健学習では、健康行動が重要だと分かっているにもかかわらず、私達はどのようにしてそれを実践することができないのかという視点から、「教材病気の予防シーソー」を児童と共に作成した。

★教材「病気の予防シーズン」の仕組み



ルールに乗っているキャラクターが児童の状態を示し、児童が健康行動を実践することによってもたらされるよいこと（プラス面）と健康行動を実践するときにハードルとなること（マイナス面）のどちらを優先させるか（価値をおくか）によって、キャラクターも移動する仕組みとなっている。

このように教材で児童の思考を可視化することによって、プラス面とマイナス面を比較しやすくし、児童の意思決定を促せるようにした。また、可視化したことによって、児童はプラス面がマイナス面よりも重大であることに気付くことができた。

ここでは、「生活習慣を整える」「予防接種や検診を受ける」などといった健康行動を実践するときにハードルとなること（マイナス面）として、「時間がかかる」「面倒くさい」「心身の負担」「依存性」「お金がかかる」「痛い」などの考えがあがった。

その一方で、健康行動を実践することによってもたらされるよいこと（プラス面）として、「長生きできる」「健康だと時間を有効に使える」「やりたいことができる」「夢がかなう」「早期発見・早期治療できる」、その結果「家族に負担をかけないで済む」などといった考えがあがった。

この学習活動を通して、健康行動を実践することによるプラス面とマイナス面を可視化して比較しやすくしたことによって、児童はプラス面がマイナス面よりも重大であることに気付くことができた。またこの学

習活動は、健康行動を実践するかどうか意思決定する際、プラス面とマイナス面の両面から考えるようにする思考方法を理解するための有効な手立てとなった。

(2) 総合的な学習の時間における健康信念モデルの活用

「目指せ！ヘルシーファミリー」という学習活動において、家族ががんをはじめとする生活習慣病に罹患することを予防していけるように、児童はヘルスプロモーターとして実際に働きかけを行った。

目指せ！ヘルシーファミリー

※ヘルスプロモーターの _____ です。
お母さん _____ の健康づくりのために
以下のことを提案します。

① 生活習慣病を予防するために、実行してほしいこと
「ぜひ、〇〇を実行してください。」
ぜひ、検診を今年だけでなく、毎年受けて下さい
あと、ヨガを続けるか、ゴルフを再開して下さい

② 実行するときに、ハードルになること(マイナス面)
「でも、〇〇という、ハードルになること(マイナス面)があります。」
検診…あんまりくさくない??
運動…時間がかかる??
つかえ??

③ 実行することによってもたらされる 1いいこと(プラス面)
「とは言うものの、〇〇という、いいこと(プラス面)もあります。」
がんになってまずくみつかると治りづかくなる??
太らないから底にする必要がなくなる??
がんにならなければたら安心して暮らす??
→長生きできる??

児童の
写真

①を実行するために、以下のことを協力します。
「①を実行できるよう、ぼく・私は、〇〇を行うことによって、あなたをサポートします。」
検診のとき…ちゃんと留守番をして、お父さんお母さんに代わってやる??
運動するときはマラソン・ゴルフなどと一緒にやる??

② ぼく・わたしの願い
「ぼく・私は、〇〇さんに、〇〇(願い)してほしいです。だから、ぜひ〇〇を実行してください。」
私は、お母さんに、長生きしてほしい。そして、いっしょに家族にみんな健康に暮らしたいから、運動したり検診にいらしてほしいです??

健康信念モデルで考えたことを学習活動の中で使ったことについて書いてください。
健康信念モデルが「がん」の予防に役立っていることを実感することができた。お母さんにも健康信念モデルの大切さを伝えていきたい。お母さんにも健康信念モデルの大切さを伝えていきたい。お母さんにも健康信念モデルの大切さを伝えていきたい。
よし

104

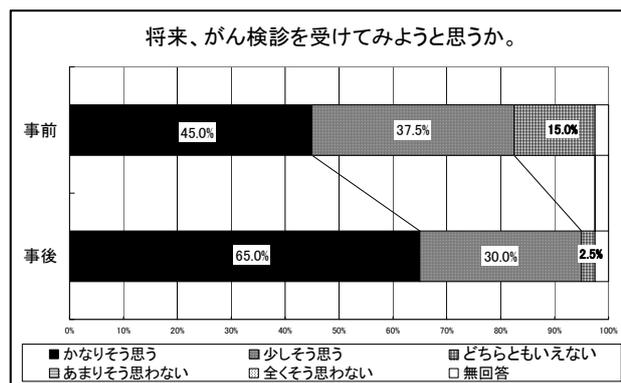
査では 90.0%に上昇していた。

さらに、「将来、がん検診を受けてみようと思うか」の設問に対して、「かなりそう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が、事前調査で 82.5%だったのが、事後調査では 95.0%に上昇していた。この結果から、保健学習で病気の予防には早期発見・早期治療（二次予防）が重要であるという知識を児童は習得し、総合的な学習の時間で体験談を聞いたり、調べる活動を行ったりしたことによって、「がん検診を受ける」という健康行動に児童は価値を見だし、それを意欲的に実践していこうとしていることが明らかとなった。

これらの調査結果と授業のワークシートの分析から、「病気の予防の三段階」に基づいた授業プログラムを展開することによって、児童が自他の病気を予防していくことができるようにするための資質や能力を身に付けられたことが確認された。

《参考文献》

- i) 島内憲夫, 鈴木美奈子:ヘルスプロモーション—WHO:バンコク憲章 (21世紀の健康戦略シリーズ). 垣内出版, 2012
- ii) 衛藤隆、永井大樹、丸山東人他:Health Promoting School の概念と実践:東京大学大学院教育研究科紀要、Vol.44,451-456,2004
- iii) 島内憲夫, 助友裕子:21世紀の健康戦略 (別巻I) 改訂増補ヘルスプロモーションのすすめ. 垣内出版, 2002
- iv) 『グローバル・スクールヘルス・プロモーションの事例研究』抄訳
- v) 戸神ふみ子:学校におけるヘルスプロモーターとしての養護教諭の役割に関する研究—心とからだのサインを読み解く力の分析



また、総合的な学習の時間において健康信念モデルに基づいた学習活動を設定することによって、家族が病気を予防するための健康行動を実践していけるように、児童が意欲的に働きかけを行っていたことが確認された。

以上のことから、本授業プログラムを実施することによって、児童がヘルスプロモーターの役割を担うことについての可能性が示唆された。

- 一. 愛知教育大学 24-Mar-2009
- vi) 大津一義:生き生きスクールの推進・学校保健研究, vol.49 NO.6, 2008
- vii) 「がんのことをもっと知ろう」編集委員会:小学校健康教育資料 生活習慣病のひとつ がんのことをもっと知ろう. 国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部, 2009
- viii) 厚生労働省がん対策推進協議会:第24回がん対策推進協議会 資料3がん教育に関する委員からの意見のまとめ. 厚生労働省, 2011
- ix) 松本千明:医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎. 医歯薬出版株式会社, 2002